



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 100

編集 環境パートナーシップちば

代表 桑波田 和子

事務局 千葉市中央区中央港1-11-1

(一財)千葉県環境財団事務局

環境活動支援課気付

電話 043-246-2180

FAX 043-246-6969

「だより100号」の発行への思い

代表 桑波田 和子

環境パートナーシップちば会報「だより」は、平成26年11月30日発行で「100号」となります。

創刊号は、平成9年6月29日の設立後、初めての会報で、平成9年8月20日に発刊されました。創刊号から17年過ぎましたが、年間6回発行し続けてきました。

創刊号には、設立当時の社会状況、環境パートナーシップちばに期待すること、規約、総会の様子、部会（企画・研修・広報）等の活動が記載されています。また、当会のロゴマークも、このときにつくられました。

100号までを17年間をкаいつまんで見ると、平成10年は、ダイオキシン、環境ホルモン、初めてのエコツアー「三島のグラウンドワーク&柿田川」、「富士川に清流を取り戻す会」「春木川をきれいにする連絡協議会」等団体活動紹介が記されています。

11年には、「環境シンポジウム」、「エコメッセちば」、県内の環境団体の活動紹介。13年は、「NPO立県千葉」の推奨。16年は第1回里山シンポジウム開催、19年は、「県民参加の環境学習基本方針をつくろう会」、「印旛沼をきれいにする活動」。20年は、「文化の日千葉県功労者表彰」を当会が受賞。23年は、環境学習指導者養成講座報告、ナガエツルノゲイトウの調査等がありました。

振り返ってみると「だより」は、環境を取り巻く社会状況、団体の活動、企業や千葉県、市町村等の環境への取り組み等の一部を垣間見ることができます。また、当会が時代を反映してどのように対応（活動）してきたか、今後どのようにすすめて行くのかの資料にもなります。

100号以降の「だより」も、環境保全活動を推進していくために、市民・企業・行政とのパートナーシップをより進めるヒント、実行が見える会報をお届けしたいと思います。

第12回印旛沼流域環境・体験フェア

平成26年10月25日、26日の2日間にわたり、佐倉市ふるさと広場に隣接する会場で第12回印旛沼流域環境・体験フェアが開催されました。

昨年度は台風の出水で会場が水浸しになり、涙をのんでの中止だったので、今年は誰もが、まずお天候のことを気にしていました。3日前の降雨によって会場の水が抜けきれなかったのですが、なんとか無事に開催にこぎつけることができ、2日間で約4,000名のお客様にきていただくことができました。

今年度のキャッチコピーは「水と食と発見のある印旛沼」。「食」というキーワードに沿って、市町、市民、農業者、大学等のブースでいろいろな「おいしいもの」が売られていました。

今年の特徴は「市民企画部会」というものができて、そこで市民団体の出展者やステージ出演者を幅広く募ったことと、印旛沼水土里ネットの高橋修さんのご尽力のおかげで大学の研究室のブース参加がたくさんあったことです。

但し、実際には環境フェアの大枠はフェア検討委員会で決められており、予算もなかったため、市民企画部会の裁量範囲はほとんどありませんでした。次年度以降、少しずつ協働を育てていくことが必要です。

環境パートナーシップちばは、1日目は千葉市・八千代市と一緒にブースでナガエツルノゲイトウのこれまでの調査結果等を展示し（2日目は環パ単独で展示）、お子様向けには外来魚釣りゲームを行い、大好評でした。



(文責 小倉 久子)

「第3回印旛沼流域再生大賞」を受賞して

NPO 法人八千代オイコス代表 川瀬 純一

第12回印旛沼流域環境・体験フェアの会場であるNPO 八千代オイコスと他団体の2組が千葉県・印旛沼流域環境健全化会議により「第3回印旛沼流域再生大賞」の栄えある大賞を頂きました。

前日までの大雨が当日は晴れ、すがすがしい秋の日の下、体験フェアに集まってこられた多数の来場者の前で表彰状を受けられた事、改めて関係者の皆様へ感謝申し上げます。

八千代オイコスは、平成13年12月に設立して、間もなく14年目を迎えます。この間我々は、八千代市の自然環境保全活動を基本に市内北西部を源に発する印旛沼水系最上流部の「花輪川」を主とした活動の場に「環境美化・自然環境調査や生物多様性の再生」に取り組んで参りました。

月1回の川の清掃、雑草刈り、側道の花壇づくり等の作業を行い、暑さ、寒さの中でメンバー一同が地道な活動を続けて行くことが、印旛沼への環境改善につながることを信じて活動してきたことが認められたのでしょ

う。親子を対象に今年で8年継続の夏休みに開催する「川の学校」は、参加の子ども達と、全長僅か数キロの花輪川で生き物さがしや川遊びの後、“水について”、“川の生き物”、“印旛沼の役割”“人と環境”等体験を通して学びます。

この事業は、「次世代へ環境教育の場としてつながれば」との思いを強くしているところです。また、ここ数年花輪川の最上流部に湧出する水量の測定を定期的に行い、環境の変化を今後も見守って行きたいと思っています。

オイコス活動13年間を通じ、平成16年5月に社団法人・日本河川協会から「花輪川の美化・環境保全活動」、平成24年12月には環境省水・大気環境局長から「水・土壌環境の保全活動に貢献あり」との表彰状を頂き、今回の大賞を併せて3回目の受賞となりました。オイコスのメンバー一同これを励みに今後なお一層のたゆまぬ活動を継続して参りたいと思います。

桑納川 ナガエツルノゲイトウ生態学習会

独立行政法人水資源機構 千葉用水総合管理所 副所長 服部 正樹

平成24年10月8日(水)、(独)水資源機構千葉用水総合管理所は、千葉県、千葉市、八千代市、印旛沼土地改良区、東邦大学及び各環境団体などの約30名の参加者とともに、八千代市を流れる桑納(かんのう)川において、環境パートナーシップちば主催による「特定外来生物ナガエツルノゲイトウ」の生態学習会に参加しました。

当日、東邦大学保全生態学研究室 西廣 淳先生からは、ナガエツルノゲイトウが繁茂する環境条件、繁茂の仕方及びそれに対する効果的な駆除方法に加え、印旛沼周辺で既に広範囲に分布しているナガエツルノゲイトウを全部駆除することは大変困難な状況なので、今後は同植物を増殖及び繁茂させない対策を講じることが必要との報告を受けました。

また、これまでの地上からの分布調査に加え、定期的にラジコンヘリコプターを使った空中写真撮影を通じて分布状況を詳細に把握し、どのポイントを駆除すれば効果的であるかなどの対策を検討していくなどの提案もありました。

穏やかな秋の日和のもと、道すがら「アレチウリ」や5mまで背丈のある「オオブタクサ」という特定外来植物の説明を受けたり、参加者間ではナガエツルノゲイトウについてより具体的な意見交換が行われるとともに、当機構からは今回の台

風18号による大和田機場の排水運転状況及びそれに係わるナガエツルノゲイトウの漂着状況について説明するなどして、瞬く間に時間が過ぎていきました。

引き続き、同管理所は、各関係機関とナガエツルノゲイトウに関する情報共有を図るとともに、連携してその方策を模索し解決に向けて取り組んでいきます。



2014環境講座

「環境と減災を考える」

9月25日(木)浦安市民プラザで、内閣府防災ボランティア活動検討メンバー、減災塾代表の水島重光氏の講座を30名の参加でお聞きしました。

水島氏は、神戸灘生協店の副店長として阪神淡路大震災を経験され、発災直後から生活必需品を被災者へ届けることに尽力された経験から『できるだけ行政に頼らず、市民レベルでの備え』『地域のリーダー育成で、住民がすそ野の広がっていく』が大事であり、高い確率で発生するといわれる首都直下・東南海地震への備えについてお話をいただきました。備えとは、万が一の時にパニックにならないように事前に準備しておくこと。

まず、8つのチェックで備えをする項目の確認をし、次に体験に基づく具体的な対策をお聞きし、最後に首都直下地震の想定映像を見せていただきました。

主なお話、大災害は「便利な日常生活が破壊され、それなりの覚悟と我慢を強いられ、限りなくエコな生活にならざるを得ない」。減災は限りなくエコな暮らしにつながる。

中央防災会議は、備蓄は3日分でなく1週間(7日)分と正式に要請。まず、冷蔵庫の中には何日

分あるかチェック。電気が止まった時は冷蔵庫の中身から手をつけラーメン袋は最後。避難所での救援物資が公平に配られるかは、自治会などの成熟度で大きく違ってくる。

万が一のときに行政ができることは限られ『行政の壁』がある、身近なところから備えておくことが基本。「減災」3原則、自助＝「身を守る」、自助＋共助＝「生き抜く」、共助＋公助＝「助け合う」。聴講者からは非常に参考になったという感想をいただきました。(文責 川島 謙治)



2014環境講座

「生物多様性と里山・里海保全活動」

平成26年10月5日(日)「いすみ環境と文化の里」での標題の講座は、大型台風発生の影響で朝から雨模様の天候にもかかわらず総勢28名(うち小学生5名)に参加していただきました。

行きのバスの中ではファシリテーション講座インターン4名による、環境クイズや指先の運動等のレクで、参加者と和やかな交流を図りました。

当初は「いすみ環境と文化の里」センターでの講義と、船で洋上から陸地を見学し、里山と里海の繋がりを体験する予定でしたが、残念ながら洋上見学は悪天候で中止となり、「いすみ環境と文化の里」センター内で、「夷隅郡市自然を守る会」の手塚幸夫氏、「千葉県野鳥の会」布留川毅氏による講演とセンター職員による館内説明をお聞きしました。

講演は、手塚氏から①いすみ市は全体が里山・里海の地形をなして、多種多様な生物がかかわりあって生存している。②夷隅郡市においても農林業の衰退により里山の谷津荒廃が進み、かつては里山であたり前に見られた生物に取って代わりイノシシやアライグマ、外来生物がまん延して生態系が壊れ始めた。③NPOや市民が立ち上がり、谷

津の再生を手がけた結果、今日の里山に生物多様性を取り戻せた。というお話をいただき、加えて、布留川氏より、いすみ市には10の自慢するものがあり、◆ミヤコタナゴ(環境省レッドリスト)が生息◆アカウミガメが上陸産卵◆干潟の汽水域があり太平洋側では珍しい◆白鳥が飛来する等々をお聞きしました。

すばらしい環境があって羨ましく思いました。船上からの観察は、いつか機会をみて是非体験してみたいと思いながら帰路につきました。

(文責 萩原 耕作)



「放射能を知る」

小林 悦子（千葉市在住）

平成26年10月28日13時から千葉県環境研究センター/稲毛地区で、同センター井上智博首席研究員による「放射能を知る」を受講した。

はじめに、放射能と放射線に関する基礎的な講義を受けた。①放射能を有するものから出るのが放射線で、放射能の強さはBq（ベクレル）、受ける線量はSv（シーベルト）という単位で測定される。②放射線には α 線、 β 線、 γ 線・X線、中性子線があり、この順で透過力が強い。③日常生活における被ばく（年間）は、世界平均3.02、日本平均5.97mSvである。そのうち自然放射線量は2.4、2.1mSvと同レベルだが、診断被ばく（医療用：レントゲン撮影、放射線治療など）が0.6、3.87mSvと大きく異なっている。私は、世界平均だけではなくいわゆる先進諸国と発展途上国を分けたデータを見たいと思った。健康を守るための診断被ばくと、そうした医療的恩恵に浴していないための低被ばく、あるいは、原発事故のように結果的に健康を害するのみの被ばくとを被ばく量の多寡だけで論ずることはできないので、単純なデータ提示は誤解を生む可能性があるのではないかと。

次いで、千葉県の環境放射能と放射線に関する話があった。全国的に実施されている環境放射能水準調査では、平常時測定項目に加えて、3・11のあと強化時として項目数を増やして対応している。市原市の千葉県環境センターにおける定時降下物中131ヨウ素は、3月22日に最高値22,000MBq/km²・月、4月11日64を最後に不検出。137セシウムは、3月21日に最高値2,800MBq、5月17日14、飛んで11月16日6.4を最後に不検出となっている。国が定めた汚染状況重点調査地域（0.23 μ Sv/時以上）に千葉県（9市）は対象として指定されている。外からの被ばくを低減するには、①放射性物質から離れる、②間に遮蔽物をおく、③近くにいる時間を短くするが大切（3原則）であることを教えていただいた。



2014 環境講座「世界と日本の水事情から持続的な水利用のありかた」講座に参加して

谷口 路代（八千代市在住）

今年は水をめぐり、7月に水循環基本法と雨水利用推進法が施行されるなど水に注目が集まっています。平成26年11月16日に開催の講座は、とてもタイムリーで水ジャーナリストのアクアコミュニケーション橋本淳司さんのお話を伺うことができました。

皆さまは、ハンバーガー1つに給水車1台分2500リットルもの水が使われていることはご存知ですか。日本が小麦や牛肉、トウモロコシなどの食べ物を輸入することは、海外の水を使ったものを輸入すること、つまり水を輸入していることとなります。そのようにぜいたくな水の使い方を行っている一方で、世界中にはヒ素の出る井戸水をしかたなく利用している国もあると講師からお聞きしました。

日本では、震災後に企業や個人による地下水利用の増加により需要が高まっているとのこと。確かに周りにも防災用として家庭用の井戸を掘る人が増えたように感じます。現在、日本の水に関する行政は、飲料水は厚生労働省、排水は環境省、雨水や河川の水の管理は国土交通省とバラバラで、

水循環そのものを対象とした法律はありませんでした。そこで、水を「国民共有の貴重な財産」と位置づけた水循環基本法が施行され、地下水を持続的に利用するために、国や自治体は雨水浸透や水源涵養の能力をもつ森林、河川、農地、都市施設などを整備することに力をいれていく必要があるようです。間伐されない森は、雨水が浸透しないため水源の涵養（かんよう）になりません。手を入れた里山は人の手で守っていく必要があるために、里山の整備をすることで水を育む森を保全していくことの重要さをお話の中で感じました。

いろいろな切り口で水についてお聞きしました。参加者も興味がつきず、たくさんの質問もあり、講師は時間を超過して質問に丁寧に教えてくださいました。参加者にも身近な水について改めて考える機会になったことと思います。



環境講座 2014 「千葉県の天然ガスとエコライフ」開催報告

平成26年11月19日(水)、総勢38名で、千葉駅からバスに乗り、茂原市にある関東天然瓦斯開発株式会社へ向かいました。

会社の説明では、千葉県を中心に、茨城、埼玉、東京、神奈川県下にまたがる水溶性ガス田は、南関東ガス田と呼ばれ、可採埋蔵量が我が国最大の水溶性天然ガス田である。茂原地区は埋蔵量が豊富で、鉱床が厚く、深度は浅く、ガス水比(メタン99%)が高く、天然ガス開発に最適な条件を備えているとのことでした。ここで採掘された天然ガスは、大多喜ガス(株)、京葉瓦斯(株)等を使用している地域に供給されています。天然ガスが含まれているかん水には、ヨードが多量に含まれています。世界のヨウ素生産量はチリに次ぎ、日本が第2位で、日本のほとんどが千葉県産だそうです。また、かん水にはフルボ酸が含まれ、植物の生育に効果があるそうです。説明後、ガス井戸に行き、ガスを含むかん水が掘削されているパイプを触ったり、かん水をなめたりなど体感しました。

また、睦沢町の川底から天然ガスが湧出している場も見学しました。天然ガスの見学は初めての人が多く、掘削と地盤沈下の関係、ヨード等千葉県の資源について、「目からうろこ」とのことでした。

午後は、環境カウンセラーで、当会会員の山武市の小関光二氏宅でエコな暮らしについて学びま

した。

「我が家のエコライフと人とのふれあい」のテーマで、電気使用料の推移、1人当たりのCO₂排出量の推移などについて、小関家の実生活データを基にお聞きしました。また、LED電球と従来型蛍光灯の比較テスト、ハイブリットカーの燃費など詳細なデータが提示され、エコな暮らしを知ることができました。また、有機農法の野菜作りや販売などで、学校、研修生等のふれあいづくりを目指していると結ばれました。

昼食は、小関さん手作りの野菜入りで奥さまお手製の豚汁をおいしく頂き、心も体も温まる講座となりました。

(文責 桑波田 和子)



環境講座 2014 ご案内 「航空機騒音」

航空機騒音は、航空機から発生する騒音が大きく、空港周辺の広い地域に影響を及ぼします。千葉県は、成田空港、下総飛行場、木更津飛行場、羽田空港等の航路下にあり、広範囲で航空機騒音の影響を受け、騒音問題が生じています。特に、羽田空港については、平成22年10月のD滑走路の供用開始に伴い離着陸経路が変更され、千葉市、市川市等の市民から騒音苦情が出ているようです。

そこで、環境講座2014では、千葉県環境研究センターの石橋雅之氏から、千葉県内の航空機騒音の現状と課題について、わかりやすく解説していただきます。また、研究センターの施設見学コースも設けています。無響室と残響室で、不思議な音の世界を体験してみましょ。

日時：平成27年1月22日(木)

13:00~15:00

会場：千葉県環境研究センター/市原地区
(市原市岩崎西1-8-8)

講師：石橋雅之氏(千葉県環境研究センター大気騒音振動研究室 主席研究員)

対象：航空機騒音に関心のある方

定員：30名 応募多数の場合は抽選となります。

参加費：無料

申し込み：平成27年1月11日午後5時必着

◆メール koka@kanpachiba.com

◆Fax：047-353-8134

◆往復はがき

〒276-0012 浦安市入船2-3-303

※必要事項：①講座名 ②氏名(振り仮名)

③性別 ④年齢 ⑤自宅の連絡先(〒、住所、電話・Fax) ⑥携帯番号

問い合わせ/

講座事務局：環境パートナーシップちば

http://kanpachiba.com

Tel：090-8116-4633

第4回Eボート千葉大会 ～ハーバーシティ蘇我～

第4回Eボート千葉大会実行委員長 横山清美

千葉県のパヤ、東京湾、利根川、江戸川に囲まれ、手賀沼、印旛沼を抱き、多様な水環境、水文化を後世に引き継いで行くために、老若男女を問わず、共に水辺の交流を楽しむことができる機会として、Eボート千葉大会を立ち上げ今回で4回目を迎え、会場を印旛沼から印旛沼の水を水道水、工業用水として多く利用している千葉市のフェスティバル・ウォーク蘇我に隣接した千葉港湾内で平成26年10月18日(土)に開催しました。

Eボートは、環境【Environment】交流促進【Exchange】教育【Education】防災【Emergency】遊び【Entertainment】など多くの目的で水辺に親しむ10人乗りのボートです。

大会は、参加の25チームが午前中各3チーム9レースの予選を2回行い、タイムの速いチームが午後の決勝に参加するという競技方法でした。環パチームは、初めての人が多い中善戦し、シニア賞を獲得することができ、来年に意欲満々です。

印旛沼から千葉港湾に会場が変更になったことで、実行委員会での協議事項にも使用許可申請や競技ルールや安全管理面で多くの検討や時間が費やされました。それらを実行委員各自が主体的に

解決していく様子は、気持ちよくありがたいものでした。当日好評だったMC担当のコエコさんは、ラジオ体操を提案し、ラジオ体操楽曲使用申請にも自ら取り組んで下さいました。千葉港湾の使用申請は一番最後まで修正が入ったのですが、次回からの貴重な財産となります。副実行委員長は、フェスティバル・ウォークの館長さんでしたが、スポンサーでありながら審判長も力仕事もするという大会の運営に欠かせない方でした。これらの人々をまとめる印旛沼探検隊には事務局として大会運営に重要な事務局として大変お世話になりました。

11月21日の実行委員会では、天候のことを考慮すると10月末から11月初旬の開催が望ましいと検討されました。第5回となる2015年秋のご参加お待ちしております。



印旛沼の歴史・文化の学習～龍神伝説～

前号(99号)で印旛沼再生に向けた市民活動の一つとして印旛沼の歴史・文化の学びを挙げたので、今回は、歴史・文化のひとつとして印旛沼の龍神伝説を紹介します。

龍神伝説のあらましを、「印旛沼の龍伝説」(若山清海著、日本河川協会会報「河川文化」、平成21年12月刊)に準拠して以下に示します。

聖武天皇の天平3年(731)、諸国は旱魃(かんばつ)に襲われ、人々は大変苦しんでいた。そこで朝廷の命により、龍閣寺(龍角寺の前身)の釈命上人が請雨の祈禱をした。印旛沼に住んでいた小さな龍がこの願いを聞いて天に舞い昇り雨を降らせ、雨は七日七夜降り続いて枯れ死寸前の田畑は蘇生した。しかし、龍王の許可なく雨を降らせたため怒りに触れ、頭と腹と尾の三つに切り裂かれ地上に落とされた。人々は切り裂かれた龍の体を探し、三つに落ちた場所に寺を建て供養した。それが栄町の龍角寺(731年創建)、本埜村(現在、印西市)の龍腹寺(917年創建)及び匝瑳市の龍尾寺(709年創建)です。

それらの位置を古い地図上に☆印で示します。なお、龍尾寺はこの図の外です。

この地図は、「口訳 利根川図誌」(赤松宗旦著

安倍正路、浅野通有訳、斎書房、1990年発行)の巻4より転写、加工したもので、この本が出版された幕末時代の沼の形状や周囲の状況を知ることができます。



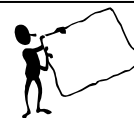
さて、このような伝説がなぜできたかですが、「雨の神」(高谷重雄著、1984年、岩崎美術社刊)によると次のようです。各寺の宗旨は、龍角寺と龍腹寺は天台宗、龍尾寺は真言宗(後に天台宗に改宗)であるが、日蓮宗や天台宗で良く使われるお経の法華教は龍神伝説と深く結びついている。そのためにこの龍神伝説も法華教の経典を農民に分かりやすく浸透させるための話と考えられている。次に、この伝説は現代にも訴求する力を持っていると思われます。その証拠に、栄町のイメージキャラクターはドラム君で、その由来は龍(ドラゴン)の夢(ム)です。

(文責 牧内 弘明)

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 24 —

おききました！ この人・この団体

ELCoの会 代表 市野 敬介



ESD ユネスコ世界会議・フォローアップ会合に参加して

2014年11月11日・12日の2日間にわたって開催された「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」の翌日、13日に同じ会場である名古屋国際会議場で行われたフォローアップ会合に参加させていただきました。

午前中は、ユネスコ教育局の担当者が英語で世界会議の成果を報告されていました。1995年から2014年までの10年間は「国連ESDの10年」として、ESDの推進が図られてきましたが、次のアクションとして、グローバル・アクション・プログラム（GAP）が提唱されています。ユネスコ教育局のESD課長からは「日本においては、この10年間でESDが教科にならなかったのは残念。行政担当者にESDが新しく付け加えられる項目として受け止められてしまった」という発言もありました。学校、行政、地域、企業、NPO、NGOなど様々な存在がつながって取り組むことが重要であることに変わりはありません。具体的に推進するためにどのようにすればよいかは午後からの分科会で話し合われることになりました。

会場には全国から400名を超える方が参加されていて、午後からは6つの分科会となつての話し合いがスタート。「学校におけるESD推進」「地域社会におけるESD推進」「ユース・エンパワメント」「ESDの担い手育成」「ESD実践や教材、支援などの情報共有」「関係者間ESD推進ネットワーク」のテーマに分かれて意見を共有しました。

私が参加した「学校におけるESD推進」の分科会では、ESDを推進するための政策・体制づくりや教員研修、変革の担い手としての子供や教員の育成について、具体的な方策を話し合いました。

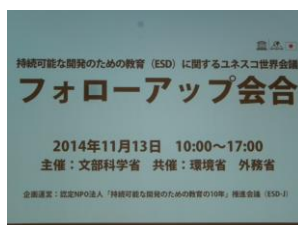
- ESDを「よのなか科」のように科目として推進する学校の特区を作る
- 現在、学校・地域・家庭が連携して取り組んでいる取り組みはかなりESDの活動として評価できるものがあるので、その連携を後押しする
- コーディネーターを活用できるようにするなどの意見が出ました

が、とりわけ、学校の先生方の負担を軽減するようにしないと活動が広がっていかないのではないかと、という課題意識は全国共通であることが分かりました。

「コーディネーターが必要だ」という議論は、ESDだけにとどまらず、地域のネットワーク構築や、キャリア教育の推進など、学校・地域・家庭が連携する時には必ず出てくる議論です。すでに学校支援のコーディネーターやキャリア教育コーディネーターなどは、養成課程や研修が充実していて、学校の実態や児童・生徒の発達段階の理解をしながら課題を解決するための経験や知識を持っている人たちが活動しています。ESDコーディネーターとして特別に認定制度を作らなければいけないわけではなさそうです。すでに他の分野の看板を掲げてコーディネーターと名乗っている人たちがESDの観点を持ち、学校がそれを利用すれば良いのではないのでしょうか。コーディネーターにも「多様性」があるのです。環境学習コーディネーターも、ESDで求められている概念を知れば、すぐに活躍する場は広がりそうですね。

フォローアップ会合では、その他の分科会で出た意見を全体で共有。1日かかりの長い集会は幕を閉じました。全国各地で実践を積み重ねることで多様性を認め合い、立場の違う人が楽しみながら次世代の育成を行うことで、持続性が生まれるはずですよ。

ELCoの会では、平成25年度に引き続き、平成26年度も環境省のESD実証事業の千葉県の事務局を受託し、県内の学校でESDの実践を行います。様々な分野の方の協力をいただきながら推進してまいります。ご支援をよろしくお願いいたします。



運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

10月運営委員会

日時 10月14日(火) 18:00~20:55

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・環境講座開講 ファシリテーター養成講座/
子ども環境会議ちば/千葉県環境講座
- ・エコメッセ2014inちば開催 9/23
- ・だより99号 印刷・発送
- ・印旛沼流域環境体験フェア説明会 10/7
- ・ナガエツルノグイトウ生態学習会 10/8

【協議】

- ・だより100号
- ・千葉県環境講座
- ・印旛沼流域環境体験フェア 10/25・26
- ・エコサロン
- ・第4回Eポート千葉大会 10/18

11月運営委員会

日時 11月11日(火) 18:00~20:00

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・環境講座開講 千葉県環境講座
「こどもエコネットちば」1月末発行
- ・印旛沼流域環境体験フェア出展 10/25・26
- ・第4回Eポート千葉大会
- ・Elcoの会活動報告
- ・ESDに関するユネスコ世界会議フォローアップ会合

【協議】

- ・だより100号
- ・千葉県環境講座
- ・エコサロン・エコメッセ
- ・みんなで学ぶ印旛沼セミナーの紹介

お知らせ

みんなで学ぶ印旛沼セミナー

そらから見た印旛沼～未来へのメッセージ～

日時：12月13日(土) 13:30~16:00

講師：近藤昭彦先生(千葉大学)

入場：無料

定員：先着90名

会場：ミレニアムセンター佐倉

主催：特定非営利活動法人水環境研究所

千葉県地球温暖化防止活動推進員の募集

〈応募要件〉

- ・千葉県内に居住、勤務または在学している満20歳以上
- ・新規に応募の場合は、今後開催する推進員養成講習会の受講が必須
- ・委嘱期間：平成27年4月~平成29年3月
- ・申し込み方法：応募申請書に記入の上、
平成26年12月26日(金)必着
千葉県地球温暖化防止活動推進センター宛
募集に関しては、県庁ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kansei/boshuu/2014/h27suishinin.html>

第16回エコプロダクツ2014

～日本最大級の環境展示会～

テーマ：見つけよう！未来を変えるエコの知恵

日時：12月11日(木)~13日(土)

10:00~18:00

(13日は17:00まで)

会場：東京ビッグサイト(東1~6ホール)

主催：(一社)産業環境管理協会、

日本経済新聞社

参加費：無料(登録制)

<http://eco-pro.com>

※記念シンポジウム、体験型イベント等開催。

エコメッセちば実行員会は、東4~5ホールのNPO・NGOコーナーに出展しています。
是非お立ちよりください。

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール: info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		